

第34回新潟糖尿病談話会

日時 平成17年3月5日(土)
午後2時～6時
会場 新潟東急イン 3階
華の間

一般演題

1 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術成績 罹病期間による影響

長谷部 日**・吉澤 豊久**
阿部 春樹**
木戸病院眼科*
新潟大学医歯学総合病院眼科**

糖尿病黄斑浮腫の発症から硝子体手術施行までの罹病期間が術後成績に与える影響を検討した。対象は00年1月～03年12月に黄斑浮腫による視力低下に対し硝子体手術を行い術後6ヶ月以上経過観察できた35症例42眼(平均65歳)で、罹病期間は<1～70ヶ月(平均10ヶ月)、術後経過観察期間は9～54ヶ月(平均26ヶ月)である。全症例の術前および術後最終視力の平均(小数視力平均)はそれぞれ0.16, 0.26で有意に改善がみられた。罹病期間 \leq 6ヶ月群と>6ヶ月群(各<6群=28眼, >6群=14眼)で術後平均最終視力を比較すると、それぞれ0.33, 0.17で有意差がみられた。<6群は術前平均視力と術後平均最終視力がそれぞれ0.19, 0.33で有意な改善がみられたが、>6群では0.12, 0.17で有意差がみられなかった。糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術は早期の治療がより有効と考えられる。

2 チームカンファレンスの経過と評価

吉田 鈴子・小林美和子・山田ハルエ
片桐 尚・涌井 一郎
刈羽郡総合病院東5階病棟内科

当院では、1997年より入院患者を対象に各部署

の情報の共有と有機的な連携による効果的な患者の指導を目指して、チームカンファレンスを行ってきた。毎週水曜午後1時から約1時間、医師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、看護師(外来、病棟)が集まり、一週目は主に患者の病態、入院目的、治療方針の紹介や問題点の表示を、2週目は指導効果の分析、問題点やその解決法、今後の方針などの検討を行ってきた。今回、チームカンファレンスの方法や問題点、改善点、他部署への要望などについて、出席メンバー21名(うちCDE8名)に15項目のアンケート調査を行い、各部署で今年度の改善目標を設定した。

3 当院における高齢者糖尿病患者の薬物治療の実態調査

山田 徹・戸谷 真紀*・田村 紀子*
新潟市民病院薬剤部
同 第2内科*

【目的】70歳以上の高齢者の薬物治療の実態調査。

【対象】内分泌代謝科外来に来院した糖尿病患者で70歳以上の無作為に抽出した患者112名。

【方法】アンケート調査。他のデータはカルテより抽出。

【結果】1型13名、2型99名、平均HbA1c 7.6 ± 1.2 。平均罹病期間 18.6 ± 8.9 年、大血管疾患合併率39.2%。食事・運動8名、経口剤54名、インスリン注射40名、両剤併用10名。自分で薬を管理、インスリン98%、内服97%。低血糖経験49.4%、対処法がわからない0%。低血糖に対して不安37%、煩わしさ内服薬6.2%、インスリン注射60%。内服薬の内容を理解していない患者8名。

【考察・結語】家族へのインスリン治療に対する知識の確認、内服している薬を正確に認識しているかの確認、指導の必要性について考慮し、調剤薬局とも連携をとりながら、高齢者に対する療養指導に生かしたい。